

弘大と小林製薬がオーラルヘルスサイエンス学講座開設

岩木ビッグデータと融合

口内環境と 全身の健康 関係性解明へ



講座の看板を持つ福田学長（左から2人目）、大脇事業部長（同3人目）ら

弘前大学（福田眞作学長）と小林製薬（本社大
阪市、小林章浩代表取締役社長）は同大学院医
学研究科内に共同研究講座「オーラルヘルスサイ
エンス学講座」を開設。同大の岩木健康増進プロ
ジェクトで追跡調査している健康ビッグデータ
と、同社の歯科口腔研究の知見や技術を融合さ
せ、口の中の環境と全身の健康状態の関係性を解
明する。同社が取り組む、加齢に伴う性ホルモ
ンや認知機能の変化についてもビッグデータと突合
し、健康状態との関係性を導き出したい考え。

（石田紅子）

18日に医学研究科で開設
式が行われ、福田学長、廣
田和美医学研究科長、同社
常務執行役員ヘルスケア事
業部事業部長の大脇藤人氏
らが出席した。

「口は全身の窓」「口腔

は感染防御の最前線」など
と表現され、歯の数の減少
や歯周炎などにより糖尿病
や認知症、誤嚥性肺炎、動
脈硬化、早産、低体重児出
産など全身疾患との関係性

が報告されている。福田学
長によると、消化管疾患と
の関連を示唆する知見もあ
るといふ。同プロジェクト
の健診は歯の状態のほか、
活舌や口腔細菌など多項目
を調査している。

講座の研究リーダーを務
める同大学院医学研究科
歯科口腔外科学講座の小林
恒教授は19年続くプロジェ
クトを通じて「口腔細菌と
メタボや高脂血症が関係し

ていることも分かってき
た」とし、「医学・歯学の
連携により得られたデータ
を用いて新たな知見を得ら
れることは重要な意義を持
つ」と述べた。

同社は同プロジェクトの
健診で呼吸を回収し、ビッ
グデータと重ね合わせて人
それぞれの疾病の可能性を
導き出したい考え。加齢に
伴う性ホルモンと心身状態

の関係性の研究も進め、認
知機能を調べる既存製品の
精度向上にも取り組む。

大脇事業部長は「共同研
究を通じてイノベーション
を起こしていきたい。他社
にはないユニークさを備え
た製品開発につなげたい」
と力を込めた。

講座開設は2月1日付。
同大の共同研究講座は計19
講座となった。